

# カタルーニャ語

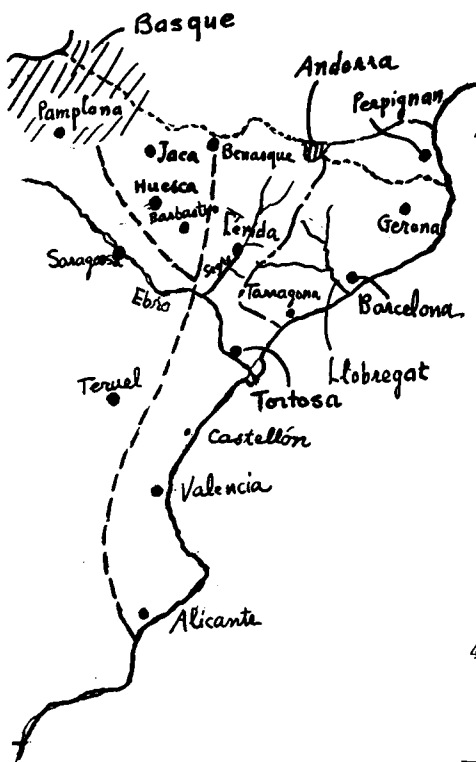
大 高 順 雄

## A. カタルーニャ語の概念

1. カタルーニャ語は、何世紀ものあいだ、以下の諸地方で話されてきた言語である：カタルーニャ公国、Andorra盆地、Pyrénées Orientales、Aragónの東部、Valencia王国(Pitiusas諸島を含む)、Cerdeña島の町Alguer。
2. 上記諸地方の総面積は 60,600 Km<sup>2</sup> 1930年の統計による総人口は 4,732,642人で、以下のような分布を示す：

Provincia de Barcelona	1 800,638	Provincia de Alicante	238,894
Provincia de Valencia	766,838	Pyrénées Orientales	220,130
Islas Baleares	365,512	Provincia de Huesca	45,608
Provincia de Tarragona	350,668	Provincia de Teruel	26,292
Provincia de Gerona	325,551	Ciudad de Alguer	12,671
Provincia de Lérida (1)	308,235	Provincia de Zaragoza	119,63
Provincia de Castellón	252,624	Andorra	7,000

(註1) Gascogne 方言を話す Valle de Arán を含まず。



3. 上記言語圏は、何世紀も孤立していた Alguer をのぞき、他のロマンス語圏に比べて、相対的均一性を特徴とする。しかしこの均一性もかなり複雑な方言的相違を示す。
4. 最も基本的には西部方言と東部方言に2分される。両方言の分割線(---)はPyrénées山脈に発して南下し、AndorraとCerdagne, Roussillonとを分かち、Segré, Ebro両河の盆地とLlobregat, Gaià, Francolíの3河の盆地とを区分し、Tarragonaの西南で東に折れて地中海に出る。西部方言はProvincia de Léridaのほとんどすべてを、東部方言はProvincia de Barcelona, Provincia de Geronaをおおう。分割線は行政区分とほとんど一致しているといえるが、Provincia de Tarragonaは東西両方言にまたがる。
- 4.1 東西両方言の音韻上の第1の相違：  
アクセントのない *a*, *e* は、西部方言では区別せられ、東部方言ではともに *ə* となる。

	西 部 方 言	東 部 方 言
mandare	> <i>maná</i>	> <i>məná</i>
sentire	> <i>sentí</i>	> <i>səntí</i>
a, e の発 展によって 区別せられ る地方	Andorra Aragón の東部 Provincia de Lérida Provincia de Tarragona の西部 Reino de Valencia (部分的に)	Pyrénées Orientales Provincia de Gerona Provincia de Barcelona Provincia de Tarragona の北東部 Islas Baleares

4.2 東西両方言の音韻上の第2の相違：

アクセントのある *e* は、西部方言 (Valencia を含む) では *e* となり、東部方言 (Baleares を含まず) では *ə* となる。

	西 部 方 言	東 部 方 言	(Baleares 方言)
cadēna	> <i>kaðəna</i>	> <i>kəðəna</i>	> <i>kəðənə</i>

4.3 東西両方言の音韻上の第3の相違：

アクセントのない *o*, *u* は、西部方言 (Valencia を含む) では区別せられ、東部方言 (Baleares を含まず) では区別せられるばあい (Mallorca の大部分) と混同せられるばあい (Menorca, Ibiza, Mallorca の町 Sóller) に分かれる。

	西 部 方 言	東 部 方 言	(Baleares 方言)
pausare	> <i>pəzə</i>	> <i>puzə</i>	> <i>pəzə / puzə</i>

標準東部方言と Mallorca 方言とは次のような対立を示す：

		標 準 東 部 方 言	Mallorca 方言
アクセ ントの ある 母音	<i>e</i> vostra mercēde	> ə > e > <i>busté</i>	> ə > <i>vostə</i>
	<i>i</i> fide	> ə > e > <i>fé</i>	> ə > <i>fə</i>
唇 子 音	語頭音 <i>v</i> vīnu	> <i>b</i> > <i>bīnu</i>	= <i>n</i> > <i>vīnu</i>
	母音間の <i>b</i> faba	> <i>b</i> > <i>fāba</i>	> <i>v</i> > <i>fava</i>

4.4 東西両方言の語形上の相違：

-ar 動詞の直説法現在第1人称単数語尾は5地方を区別する。

西部	東部	Roussillon	Valencia	Baleares-Alguer
ploro	ploru	plori	plore	plor

Baleares と Alguer とは語末母音を欠く点で等しいが、Alguer は以下の特徴をもつ：

アクセントのない  $a > a$ , アクセントのない  $e > e$ , アクセントのある  $\bar{e} > e$  (西部方言と同じ), アクセントのない  $o > u$  (東部方言と同じ) ; 母音間の  $d > r$ , 音節末の  $r > l$ , 母音間の  $l > r$ ;  $pl > pr$ ,  $cl > cr$ ,  $fl > fr$ ,  $bl > br$ ,  $gl > gr$ 。また、標準東部方言と Mallorca 方言は以下のような対立を示す：

	標準東部方言	Mallorca 方言
canto	> cantu	> cant
cantamus	> cantem	> cantam
cantatis	> canteu	> cantau
cantassem	> cantes	> cantas
credat	> cregui	> crega

両者は以上のほか、定冠詞 (標準: el, la, Mallorca: es, sa), 語順 (標準: me la dones; Mallorca: la'm dones) 等においても異なる。

5 さらに主要な5つの subdialectos が区別せられる：

capcirés	$\bar{u} > u$ ; $d, c(+e), c(+i), t\dot{i}$ などから出た母音間の $s > z$
ribagorzano	$cl > c\dot{l}$ , $bl > b\dot{l}$ , $pl > p\dot{l}$ , $fl > f\dot{l}$ ; $clau > cllau$ , $blau > bllau$ , $ple > plle$ , $flor > fllor$
parlar apitxat	有声歯擦音の欠如: $posar > possar$ , $llegir > lletxir$ 。極北東地域と広汎な Comarca valenciana (Valencia を含む) に見られる。
parlar salat	定冠詞 $es (< ipsu)$ , $sa (< ipsa)$ の使用。Baleares に勢力をはり、Ampurdán の極東地域に残存。
parlar xipella	語末拘束音節の $e > i$ : $les donis > les dones$ 。西部方言の小地域と comarca de Santa Coloma de Queralt に見られる。

## B. カタルーニャ語の起原論

- 1 カタルーニャ語の起原ないし形成にかんする諸説をたどってみよう。
- 1.1 カタルーニャ語がプロヴァンス語に類似しており、XV世紀までカタルーニャでプロヴァンス語による韻文作品が作られたことから、Milá y Fontanals, Antoni M<sup>a</sup>. Alcover, W. Meyer-Lübke, O. Schultz-Gora, E. Bourciez, A. Morel-Fatio はカタルーニャ語とプロヴァンス語の同一性を主張した。<sup>(1)</sup>
- 1.2 A. Morel-Fatio の弟子 J. Saroihandy は、カタルーニャ語を Hispania 語群から排除するのに十分な根拠がない、と指摘した。<sup>(2)</sup>
- 1.3 B. Schädel は、Iberia 半島で形成せられたカタルーニャ語がスペイン人亡命者たちとともに Septimania (今日の Roussillon) に移転せられた、と考えた。<sup>(3)</sup> H. Morf も Schädel と同じく、カタルーニャ語はスペインに根をもつが、徐々にアラゴン語に変化し、アラゴン語はカスティリャ語に移行した一方、東部スペイン人とともに、古くは *langued'oc* を話していた地方を獲得した、と考えた。<sup>(4)</sup>
- 1.4 W. von Wartburg は、カタルーニャ語がプロヴァンス語の方言でもなく、スペイン語と結合される語でもなく、ポルトガル語とともに、スペイン語とは異なる特殊な語である、と主張した。<sup>(5)</sup> しかしこの見解はすでに F. Diez によって表明せられたものであった。<sup>(6)</sup>
- 1.5 A. Griera は 1922年、Iberia 半島の中部と西部に作用した galorromànic 起原の文化潮流と、Iberia 半島の東部に作用した afroromànic 起原の文化潮流とによって、他の Hispania 語群の語とは異なるカタルーニャ語が生じ、それは galorrománico の性格をもつ、と主張した。<sup>(7)</sup>
- 1.6 W. Meyer-Lübke はカタルーニャ語をスペイン語とプロヴァンス語との連関において考察し、とくにカタルーニャ語がスペイン語と相違し、プロヴァンス語と類似している点を強調した。<sup>(8)</sup>

- 
- (注1) Milá y Fontanals, *Los Trovadores en Espagne*, pp. 50, 52, 481  
Antoni M<sup>a</sup>. Alcover, *Quèstions de Llengua y Literatura catalana*,  
pp. 254 et sq.  
W. Meyer-Lübke, *Einführung in das Studium der rom. Sprach-Wiss*,  
zweite Aufl. 26  
O. Schultz-Gora, *Altprovenzalische Elementarbuch*, zweite Aufl.  
p. 8  
E. Bourciez, *Elements de Linguistique romane*, § 262  
A. Morel-Fatio, in Gröber, *Grundriss der rom. Phil.* erste  
Aufl. p. 673
- (注2) J. Saroihandy, in Gröber, *Grundriss der rom Phil.* zweite Aufl.  
p. 846
- (注3) B. Schadel, *Revue de Dialectologie romane*, I, pp. 57 et s 99
- (注4) H. Morf, *Bulletin de Dialectologie romane* I, pp. 3 et s 99
- (注5) W. von Wartburg, in *ZRph*, XLII, p. 372
- (注6) F. Diez, *Grammaire des Langues romanes*, I, p. 102

- 1.7 A. Alonso は, Griera の文化潮流説と Meyer-Lübke のプロヴァンス語起原説とに反対し,<sup>(9)</sup> カタルーニャ語を, Ibéria 半島にはいりこんだロマンス語ないし Ibéria に基層をもつロマンス語であり, いずれにせよ, iberorrománico である, と規定した。<sup>(10)</sup>
- 1.8 V. García de Diego は, カタルーニャがローマ化されたさい, そこに沈澱した俗ラテン語から, カタルーニャ語が直接派生した, と主張した。<sup>(11)</sup>
- 2 以上の諸説のうち, 今日正当化せられるものは, Diez, Wartburg(14), A. Alonso(17), García de Diego(18) である。以下にカタルーニャ語成立の歴史的要因を分析してみよう。
- 2.1 紀元前Ⅲ世紀に, 現在カタルーニャと呼ばれる地方には Post-Capsiani, Pyrenei, Iberiani という3つの主要な人種がいたらしい。Post-Capsiani は, Roussillon の Sordones, Indigetes, Ausetani, Lacetani, Laietani, Cossetani を含み, 地中海沿岸から Ripollès, Berguedà に至るまでの北東カタルーニャに定着した。Pyrenei は, Ceretani, Bergistani, Andosini, および未詳の Pallars 族と Ribagorza 族を含み, 北東カタルーニャを占有し, Basque 語を話していたらしい。Iberiani は, Ilergetes, Ilercavones, Edetani, Contestani を含み, 北部カタルーニャに定住した(ただし, Montsec の北部, Andorra の東部および北部で Basque 語を話す種族が占めた地帯を除く)。
- 以上のことから, Roussillon と北東カタルーニャとの間の人種的結合(すなわち Sordones と Indigetes との間の交流), カタルーニャの東と西との間の人種的分裂(すなわち Post-Capsiani と Iberiani との間の分割), カタルーニャ北部における Pyrenei に結合点があること, を推定できる。

(注7) A. Griera, *Afro-romanic o ibero-romànic ?*, in *Butlletí de Dialectologia Catalana, Barcelona, t. X, 1922, pp. 35-53*

(注8) W. Meyer-Lübke, *Das Katalanische: seine Stellung zum Spanischen und Provenzalischen Sprachwissenschaftlich und historisch gestellt*, Heidelberg, C. Winter, 1925

(注9) A. Alonso, *Estudios lingüísticos, temas españoles*, Gredos, Madrid, 1951

ibid., *Gramàtica històrica del català antic*, Barcelona, 1931 *Introducció*,

ibid., *Català-castellà-provençal*, in *ZRPh*, XLV, pp. 198-254

ibid., *Bolletí del Diccionari de la Llengua catalana*. 1933-6, t. XLV, pp. 198-254

(注10) A. Alonso, *Estudios lingüísticos*, [ *op. cit.* à (9) ]

(注11) V. García de Diego, *El catalán habla hispánica pirenaica*, in *Miscelánea de Filología, Literatura e Historia cultural à memoria de Francisco Adolfo Coelho*, Lisboa, 1950

したがって、カタルーニャの東西2方言の存在と Roussillon におけるカタルーニャ語の使用とは、以上の人種的原因に帰せられたことがある。(12)

- 2.2 紀元前 218 年、ローマ人が Ampurias に入来したとき以来、現在カタルーニャ語が話される地方に、ラテン語が輸入された。ただし、ローマ化が1世紀おくれた現在の Roussillon すなわち Pyrénées Orientales [Fenollet, Conflent, Rosselló, Cerdanya Francesa, Vallespir] とⅩ世紀からⅩ世紀にかけてローマ化せられた Montsec の北部を除く。

ローマ帝国の行政区分は一般に人種的境界線(必ずしも言語的境界線ではない)に一致したが、北東スペインでは、そうではなかったらしい。

- 2.3 紀元前 27 年、Augustus は Hispania を3つの provincia すなわち Lusitania, Baetia, Tarraconensis に分割した。これらの provincia はさらにいくつかの区(Conventus)に細分せられた。Provincia Tarraconensis は7区に分かれ、その1つ、Conventus Tarraconensis は現代のカタルーニャにはほぼ対応する。(Cathalonia という名が最初に現われるのは 1114 年のイタリアの文献においてである。この名の語原についても諸説がある。(14)) 現代のカタルーニャは Xúquer 河以南は Baleares 諸島とともに、Conventus Carthaginensis をなす。(15) とうして紀元前Ⅲ世紀ごろの3つの人種 Post-Capsiani, Pyrenei, Iberiani の境界線はある程度不明になった。言語的には、Gallia Narbonensis の南部(Roussillon)と Pyrénées 山脈の南部との交流は激しく、Castelló の北(Conventus Tarraconensis)と南(Conventus Carthaginensis)との交渉も緊密であった。一方、Basque 語を話す民衆は Conventus Tarraconensis に編入せられても、言語的影響を受けなかった。彼らは Conventus Tarraconensis と Gallia Narbonensis とを結ぶ主要道路から離れていたし、ラテン語の習得もはるかに遅かった。

---

(注12) M. Sanchis, *Factores históricos de los Dialectos catalanes*, in *Estudios dedicados a Menéndez Pidal*, VI, 1956, Madrid, pp. 151-86

P. Bosch i Gimpera, *Lingüística i Etnologia primitiva a Catalunya* in *Miscel·lànea Fabra*, 1943, Buenos Aires, pp. 102-7

(注13) A. Alonso, *Partición de las Lenguas románicas de occidente*, in *Miscel·lànea Fabra*, Buenos Aires, 1943. pp. 82-3

M. Sanchis, *op. cit.*: à (12) pp. 168-9

Coromines, *La Toponymie hispanique preromane et la Survivance du basque jusqu' au bas moyen-âge, phénomènes de bilinguisme dans les Pyrénées Centrales*, in *Studia Onomastica Monacensia*, II, 1958, pp. 105-46

M. Sanchis, *Els Parlars romànics de València i Mallorca anteriors a la Reconquesta*, València, 1961, pp. 28-9

R. Menéndez Pidal, *Orígenes del español. estado lingüístico de*

2.4 V世紀に、ローマの同盟軍である西ゴート軍は、Conventus Tarraconensisの境界線を確保し、その北東地方とConventus Narbonensisとの関係を強めた。

V世紀末、西ゴート族は北西地方(Suebi族の王国)とBasque人の住むCantabriaを除いてIberia半島全体を占領した。彼らは南Galliaの広大な地を保有し、418年ごろからToulouseに首都を置いた。

2.5 フランク族はPyrénéesの北にある西ゴート族の領地をSeptimania(南Conventus Narbonensis)に限定し、Clovisは508年Toulouseを奪った。西ゴート族の首都はNarbonneに移り、Barcelona, Sevillaを経て、VI世紀後半にはToledoに転じた。Septimaniaは回教徒によるToledo王国の破壊まで西ゴートの支配下にあった。

カタルーニャ語の上記の形成期において、SeptimaniaとConventus Tarraconensisとは政治的に結合せられており、プロヴァンス語の影響が見え始める。<sup>(16)</sup>

2.6 VIII世紀後半に、フランク族は、Septimania、及びそれ以南の地域の再征服(Reconquista)を行った。785年Gironaが解放せられ、CharlemagneはUrgell, Pallars, Ribagorçaのcomarquesをフランク人の領土に編入し、Marquesado de Tolosaの一部とする。798年、Vic, Cardona, Cassarresが解放せられ、Contado de Ausonaを作る。801年Barcelonaが解放せられる。<sup>(17)</sup>これらは、PyrénéesとLlobregat河とはさまれた地方で、この地方がやがてCatalunya Vellaと呼ばれるようになる。このCatalunya VellaはGironès, Empordà, Barcelonès, Urgell, Cerdanya等のcontadosに分かれ、Septimaniaとともに、marquesado de Gotiaを形成し、Narbonne大司教区に属した。<sup>(18)</sup>

---

*la península ibérica hasta el siglo XI*, 3<sup>a</sup> ed. Madrid. 1950.  
pp. 460-72

(注14) Coromines, *El que s'ha de saber de la Llengua catalana*, Palma de Mallorca, 1954, pp. 67-83

(注15) F. Soldevila, *Història de Catalunya*, Barcelona, 3 vol. t. I, p. 13  
M. Sanchis, *Els Parlars* ... [op. cit. a (13)], pp. 29-33

(注16) A. Badia y Margarit, *Fisiognòmica comparada de las Lenguas catalana y castellana*, Barcelona, 1955, p. 21  
ibid., *Gramática històrica catalana*, Barcelona, 1951  
pp. 32-4

R. Lapesa, *Historia de la Lengua española*, 3<sup>a</sup> ed, Madrid.  
1955. pp. 72-3

F. de B. Moll, *Gramática històrica catalana*, Madrid. 1952. pp.  
36-41

(注17) F. de B. Moll, *Gramática històrica catalana*, Madrid. 1952. pp.  
24-36

A. Badia y Margarit, *Gramática històrica catalana*. Barcelona.

- 2.7. しかし、回教徒によって征服されなかった Pollars と Ribagorça は marquesado de Tolosa に併合せられたが、884年 には独立した。<sup>(19)</sup> すでに Marquesado de Gotia は 864年 Septimania から分離され、Marca hispanica を形成した。X世紀末には contados de Catalunya は實際上独立していたといえよう。878年から897年の間に Barcelona 伯であった Guifré I el Pilós は、伯爵の称号と権力がすでに世襲的なものになったことを確認し、<sup>(20)</sup> Urgell, Cerdanya, Besalú, Girona の従属と Montserrat, Camp de Tarragona の再征服を認知した。Guifré はこれらの領土を息子たちに遺贈した。Catalunya の王朝は北東イベリアに X世紀末に確立したといえる。そこにおいては Barcelona の優位が確保された。フランク族はこの Catalunya に強い影響を与えた。南フランスの封建性を手本にして作られた十分に発達した封建体制はカタルーニャの社会・政治生活を特徴づけ、<sup>(21)</sup> フランク族の法的影響が大になった。また Narbonne の教会はフランク族の儀式を採用し、カタルーニャの修道院建設は Pyrénées 以北の修道院と接続を保った。カロリング朝の書き物が西ゴート族の書き物を追放し、カタルーニャの最古の文献は 1180年に作成せられた。すでに 839年、Urgell の大聖堂の奉献はカロリング家の手によってなされ、文献はフランク族の王の時代のものであり、日付 (AD 38) はキリストの御托身あるいは誕生によってつけられている。さらにカロリング王朝の貨幣が鋳造された。カタルーニャと南フランスとは西ゴート族の 3世紀にわたる支配、フランク族の 2世紀にわたる統治によって再び緊密な関係をもつようになった。
- 2.8. Guifré I の領土 3分割によって、Guifré II は Barcelona, Ausona, Girona (現在東カタルーニャ方言の地域)、Miró は Cerdanya, Conflent,

---

1951. pp. 24-30

M. de Montoliu, *La Llengua catalana i els Trobadors*, Barcelona, 1957. pp. 5-16

(注18) F. Soldevila, *op. cit.* à (15). pp. 29-37

Ramon d'Abadal i de Vinyals, *Els primers Comtes catalans*, Barcelona, 1958. p. 221

M. de Montoliu, *op. cit.* à (17). pp. 12-3

(注19) M. Sanchis Guarner, *op. cit.* à (12). p. 170

(注20) Ramon d'Abadal i de Vinyals, *Els primers Comtes catalans*, Barcelona, 1958. p. 245

(注21) J.M. Font Rius, *Instituciones medievales españolas. La Organización política, económica y social de los Reinos cristianos de la Reconquista*, Madrid, 1949. pp. 79-91

J. Balari y Jovany, *Orígenes históricos de Cataluña*, Barcelona, 1899. pp. 335-520

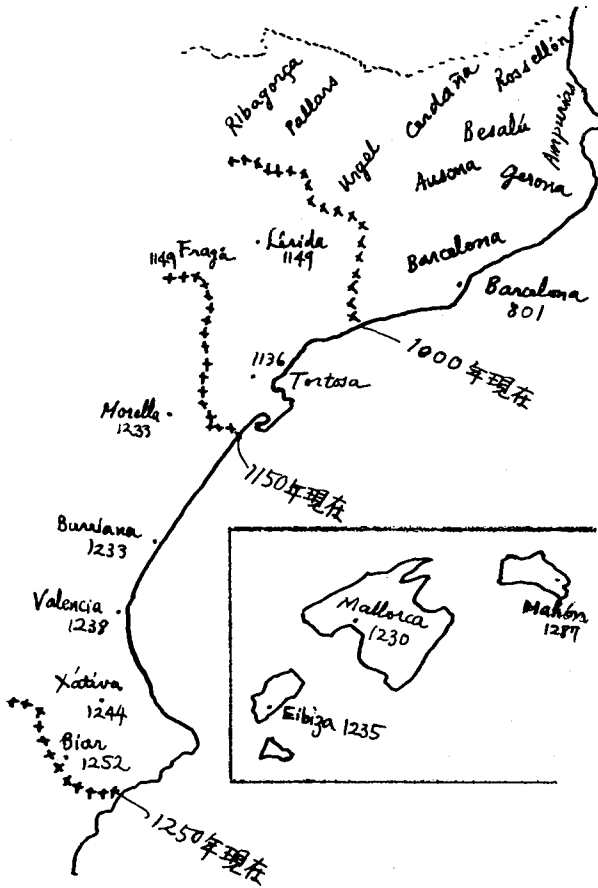
Eulalia Rodón Binué, *El Lenguaje técnico del Feudalismo en el siglo XI en Cataluña (contribución al estudio del latín medieval)* Barcelona, 1957.



Besalú (現在 Roussillon 方言の地域), Sunifred は Urgell (現在西カタルーニャ方言の地域)を得た。

Llobregat 河以上における東西方言の分布をこの3分割に帰因させる論拠はここにあるが, Sanchis Guarner は, この3分割を言語的 substrata に帰因させた。(22) Guifré I の分割は当時存在していた人種的な, そしてすでに言語的な境界線を認め, 強化したのであろう。両方言はそのご Reconquista とともに南へ伸び, mozarabe を追放していった。(23)

2.9 Reconquista は Ramón Berenguer (1036-76) によって始められた。



彼は Urgell と同盟して Urgell, Pallars の南進を阻止し, Lleida の回教徒を抑え, Aragón の東進を妨害した。(24) 以下に各地の解放の時期を示す:

- 801 Barcelona
- 1050 Camarasa, Àger
- 1063 Pilza, Purroi, Estopanyà
- 1070 Cervera
- 1079 Espulga de Francolí, Barberà
- 1091 Tarragona
- 1096 Huesca
- 1101 Barbastro
- 1106 Balaguer
- 1108 Tamarit de Llitera
- 1118 Saragossa
- 1136 Tortosa
- 1149 Lleida, Fraga
- 1153 Mirabet
- 1210 Adamuç, Castej-Ifabib, Sertella

(注22) M. Sanchis Guarner, *op. cit.* à (12). p. 160

(注23) Ramón Menéndez Pidal, *op. cit.* à (13). p. 434

A. Galmés de Fuentes, *El Mozárabe levantino en los Libros de los Repartimientos de Mallorca y Valencia*, in *Nueva Revista de Filología Hispánica*, Colegio de Mexico, N. 1950. pp. 314-46  
 F. de B. Moll, *Gramática Histórica Catalana*, Madrid, 1952 pp. 51-3

1230	Mallorca
1233	Morella, Borriana
1235	Eibiza
1238	Valencia
1244	Xàtiva, Biar
1266	Murcia
1287	Menorca
1304	Alacant, Elx, Oriola
1354	Alguer

C 方言分布の歴史的要因

- 1 上記の諸事実から、カタルーニャ語は Iberia 諸語と langue d'oc とから独立した1つの言語であり、東西両方言に分かれている、ということが歴史的に明らかである。それらの分布状態はすでにのべた。
- 2 南部における東西両方言の音韻的区別は、少くとも部分的には、Reconquista における両移住者たちの出所に依存するらしい。彼らが Urgell, Pallars, Ribagorça から出たとすれば、彼らは西方言を扱めたであろうし、Girona, Ausona から出たとすれば、東方言を伝えたであろう。南部における方言分布は Reconquista の結果だと仮定できる。
- 3 北部では東西方言の区別が Reconquista 以前に存し、さらに、Roussillon 方言などのような subdialectos さえすでに分化していた (cf. A. 5)。Gatalunya Vella は東方言の産であり、Urgell, Pallars, Ribagorça は西方言の場であった。Guifré I は 898年領地の分配に当たって、言語的相違に対応する人種的区別を考慮したと考えられる。
- 4 西方言地域は romanización 以前に Iberia 族 (Ilergetes, Ilercavones 等) が占領していた諸地方に大体一致し、東方言地域は Iberia 族でない種族 (Indigetes, Laietani, Lacetani, Cosetani 等) が占拠していた

(注22) M. Sanchis Guarner, *op. cit.* à (12). p. 160

(注23) Ramon Henendez Pidal, *op. cit.* à (13). p. 434

A. Galmés de Fuentes, *El Mozárabe levantino en los Libros de los Repartimientos de Mallorca y Valencia*, in *Nueva Revista de Filología Hispánica*, Colegio de Mexico, N, 1950. pp. 314-46

F. de B. Moll, *Gramática Histórica Catalana*, Madrid, 1952. pp. 51-3

M. Sanchis Guarner, *Els Parlars...* [*op. cit.* à (13)] pp. 103~47

David A. Griffin, *Los Mozarabismos del «Vocabulista» atribuido a Ramón Martí*, Madrid, 1961.

A. Zamora Vicente, *Dialectología española*, Madrid, 1960.

(注24) F. Soldevila, *op. cit.* à (15). pp. 71-81

ibid, *Historia de España*, I. Barceloua, 1952. pp. 297-411

諸地方にはほぼ一致する (cf. B. 2, 1)。

5. Balears 諸島は Girona と Barcelona からの再移住者によって占められ、東方言地域に組み込まれる。征服に関係し、諸島の分配を受けた主要な権勢家は、Ampurias 伯、Barcelona 司教、Moncada 侯、Tarragona 侯、等で、彼らはすべて東カタルーニャから出ている。
6. 東西両方言間の母音組織の相違は Reconquista と romanización 以前の substrata によって説明されるが、語彙の相違は romanización 自体が2つの道をたどり、2つの核を形成したことを示す。この語彙の研究は未発達であるが、確認せられている例を挙げてみよう：

概念	東 方 言	西 方 言	スペイン語
鏡	speclu > espill	miraclu > mirall	espejo
臍	umb ilīcu > melic	*lumbriculu > llombrígol	ombligo
子供	*ciccu > xic	*ninnu > nen, noi	niño
鳥	*muscione > moixó	aucellu > ocell	pájaro
子羊	*cordoriu > corder	ips' agnu > xai	cordero
蝙蝠	murecaecu > muricec	ratta-pennata > rata-pinyada	murciélago
水差	*situlone > selló	cantharu > c`antir	botijo
酵母	levitu > lleute	levatu > llevat	levadura
煤煙	stillici diu > estalzi fulligine > folli	sudica > sutja	hollín

ただし、基となったラテン語が一方の方言地域だけで使用されたのではなく、とくに境界地域では両方言の相互的影響が強い。上掲の語彙は一般的な相違を示すにとどまる。

カタルーニャ語の形成要素としては、ラテン語、substrato prerromano のほか、ギリシャ語、ゲルマン語、アラビア語、Mozarabe の言語、プロヴァンス語、カステイリャ語の影響を論じなくてはならず、カタルーニャ語の音韻体系を解明する必要があるが、後日にゆずる。

なお、本論および文献目録の作成は以下の2書に負う：

- Francisco de B. Moll, *Gramática histórica catalana*. Gredos, Madrid, 1952

- Paul Russell-Gebbett, *Mediaeval Catalan Linguistic Texts*. Dolphin. Oxford. 1965

(岡山大学助教授)